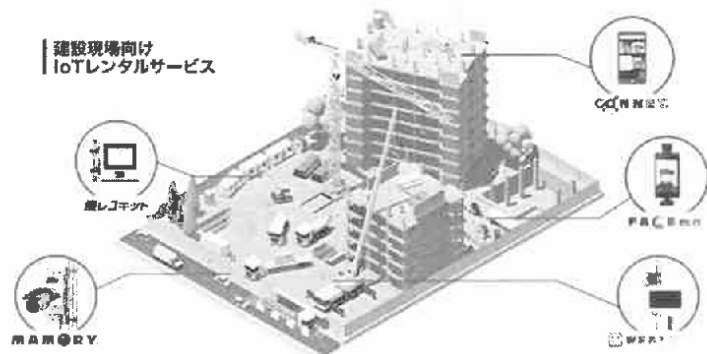


# 建設現場を高度化

## キッズウェイ IOT機器レンタルサービス

受配電設備などを製造販売する河村電器産業グループのキッズウェイ（愛知県瀬戸市）は、防犯カメラや環境測定センサーなどのIoT機器レンタルサービスの提供を通じて、建設現場を支えている。従前の各種サービスに加え、他社サービスのデータも連携できる「管理ダッシュボードXrossView®」（クロスビュー）の提供を9月に開始するなど、建設業界全体のDXの支援に乗り出した。これらのノウハウを生かすことで、設備管理を伴う商業施設や集合住宅など、不動産業界のDXを後押しする取り組みも視野に入れ、導入活用の訴求を加速していく。



同社はデータセンタ―事業で培った情報通信技術で集合住宅向け高速インターネット接続サービス『あばねつと』を提供するほか、IoT機器のレンタルサービスでは、建設現場の高度化を支援している（イメージ図）。

同社経営執行役社長の高橋孝司氏は、「永続的ではない限定の工期で稼働する建設現場は買い取りよりも、都度の目的や用途に応じたレンタルサービスのニーズが強い。比較的に低コストで現場をIT化し、防犯から安全管理まで高度化が

できる。当社が機能更新し、各機器の技術上の陳腐化の不安もない」と説明する。建設業界は人手不足が深刻化し、省人化やDXの取り組みが必須で急務ともなった。デジタル技術はその解決策の1つとなる。生産性も向上する。同社提供のクラウド型監視カメラ「MAMORY」（マモリー）は当初の防犯目的から現在は、現場の適切な安全や労務の管理で導入活用が広がる。クラウド環境センサー「WEATHERY」（ウェザリー）は風速や温・湿度を計測し、侵入者を検知して光や音で警告する機能も搭載する。熱中症対策から防犯まで幅広く対応する。クラウド型管理システム「CONNECT」（コネット）は現場の映像や写真などのデータを共有し、

ビデオチャットで遠隔地からでも状況を把握できる。また『建レコキット』は、通信機能を搭載し、インターネット環境が必要ない。技能労働者が就業情報のカードをかざせば、専用アプリと端末からCCUS（建設キャリアアップシステム）に送信できる。同様に、CCUSと連携する『FACEma』（フェイスマ）は提供開始当時のコロナ禍を受け、遠赤外線で体温を測定するサーマルカメラのほか、顔認証機能を搭載して適切に入退場を容易に管理できる。竹中工務店と共同で開発した遠隔地からも現場を管理できる騒音振動センサー『DECIBERY』（デシベリー）は近隣対策に役立つ。大林組と共同開発した『顔認証システムFACEma®管理BOXシリーズ』鍵管理BOXモデルは、顔認証でBOXの扉を解錠し、物理鍵の持ち出しの有無を管理画面で確認できる。受付や受け渡し、機能開発中の予約システムによって物理鍵の煩雑になりがちな管理を容易にする。今後は、各種設備の管理業務が発生する商業施設や集合住宅への導入を訴求していく。これらの『点』の各種サービスを統合して『面的』に活用できるサービスの提供も始めた。各種データを一元で管理・可視化できる『管理ダッシュボードXrossView®』は、同社の各種サービスに加え、他社提供サービスも同一画面上で連携してリアルタイムに表示ができる。サービスごとに管理画面を使い分ける手間をなくせる。

「今後、顔認証技術などを生かし、点検や巡回に有用なドローン（無人航空機）やロボットなどで他社と連携を図る。新たなソリューションを開発していく。建設現場から施設管理の不動産業界、介護や保育の領域への進出も視野に入れている」（高橋氏）。